

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2024年2月6日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）

【会社名】 NECキャピタルソリューション株式会社

【英訳名】 NEC Capital Solutions Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菅沼 正明

【本店の所在の場所】 東京都港区港南二丁目15番3号

【電話番号】 (03)6720 8400(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 渡辺 登

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南二丁目15番3号

【電話番号】 (03)6720 8400(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 渡辺 登

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	196,232	187,559	258,107
経常利益 (百万円)	11,669	6,921	12,440
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	5,666	3,510	6,418
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	10,576	6,026	10,914
純資産額 (百万円)	131,222	134,405	128,815
総資産額 (百万円)	1,008,356	1,045,926	1,055,875
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	263.20	163.04	298.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	10.9	10.7	10.4

回次	第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	58.26	72.72

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(インベストメント事業)

第2四半期連結会計期間より、新たに設立した匿名組合Rレジデンス1号を連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に関するリスクは沈静化し、経済活動の正常化に向けた動きが継続しています。11月には日経平均株価が33年ぶりの高値水準となるなど、経済の正常化は資本市場の活性化にもつながる状況となっています。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争が勃発するなど、世界経済の先行きに不透明感を与える懸念材料が増えています。加えて、コロナ融資の返済期限到来による企業倒産は増加傾向にあり、為替変動や物価高騰と併せて国内景気の今後の動向については注視が必要と考えています。

当社グループの属するリース業界においては、業界全体の2023年4月から2023年12月累計のリース取扱高は、前年同期比8.5%増の3兆2,257億円となっています。（出典：公益社団法人リース事業協会「リース統計」）

このような状況下において、当社リース事業の契約実行高は前年同期比2.2%減、成約高は同11.8%増となりました。契約実行高が前年割れとなっている主な要因は、第2四半期と同様に前年同期に複数の大型の官公庁自治体案件があったことによるものであります。成約高については官公庁の大型案件を獲得したことから前年同期を上回っており、足下の営業活動については順調に進捗していると考えています。

ファイナンス事業においては、企業融資の減少により、契約実行高、成約高共に前年同期を下回る結果となりました。

インベストメント事業においては、前年同期に大型の販売用不動産売却収益等を計上したことにより、売上高、営業利益共に前年同期を下回りました。

その他の事業においては、前年同期に大型の売却案件を計上したことにより売上高は前年同期比減となっていますが、ヘルスケア施設の賃料収入やPFI手数料収益、太陽光売電収益等を計上したことにより、売上総利益、営業利益は前年同期を上回りました。

経営成績においては、前年同期に大型の販売用不動産の売却を計上したインベストメント事業の減収等により、売上高、売上総利益共に前年同期比減少となりました。売上総利益の減少に加え、人件費の増加に伴う販売費及び一般管理費の前年同期比増加等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についてはいずれも前年同期を下回る結果となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,875億59百万円（前年同期比4.4%減）、営業利益72億56百万円（同34.4%減）、経常利益69億21百万円（同40.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益35億10百万円（同38.0%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### a. リース事業

売上高は、前年同期比0.8%増の1,693億85百万円となり、営業利益は前年同期に大型の賃貸資産の売却があったこと等により、前年同期比13億73百万円減少の40億44百万円となりました。

#### b. ファイナンス事業

売上高は、配当収益や金利収入等により前年同期比15.9%増の58億円となり、営業利益は資金原価や販売費及び一般管理費の増加等により、ほぼ前年同期並みの15億82百万円となりました。

c. インベストメント事業

売上高は、前年同期に大型の販売用不動産の売却や配当収益があったこと等から、前年同期比49.8%減の99億73百万円となり、営業利益は前年同期比24億48百万円減少の27億38百万円となりました。

d. その他の事業

売上高は、前年同期にヘルスケア不動産の売却があったことにより、前年同期比27.5%減の24億56百万円となったものの、ヘルスケア不動産の賃料収入、太陽光売電売上及びアドバイザーフィー等により営業利益は前年同期比70百万円増加の2億38百万円となりました。

財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて99億49百万円減少し、1兆459億26百万円となりました。主な要因としては、有形固定資産の賃貸資産が263億89百万円、投資有価証券が112億56百万円増加したものの、リース債権及びリース投資資産が467億17百万円減少したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べて155億39百万円減少し、9,115億20百万円となりました。主な要因としては、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が82億53百万円増加したものの、コマーシャル・ペーパーが230億円減少したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて55億90百万円増加し、1,344億5百万円となりました。主な要因としては、非支配株主持分が34億70百万円、為替換算調整勘定が13億83百万円増加したことによります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

## (4) 営業取引の状況

## 契約実行高

契約実行高は、提出会社の取引が大半を占めているため、提出会社の状況について記載しております。

セグメントの名称		当第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	
		契約実行高(百万円)	前年同期比(%)
リース事業	ファイナンス・リース	82,281	10.7
	オペレーティング・リース	18,970	35.3
	割賦	13,601	18.8
	計	114,852	6.5
ファイナンス事業		253,516	2.5
その他の事業		800	78.9
合計		369,169	4.5

## 営業資産残高

セグメントの名称	前第3四半期 連結会計期間 (2022年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間 (2023年12月31日)		増減 金額(百万円)
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	
リース事業	583,569	62.7	570,841	59.2	12,728
ファイナンス事業	241,005	25.9	243,727	25.2	2,722
インベストメント事業	82,273	8.8	121,250	12.6	38,976
その他の事業	23,849	2.6	28,989	3.0	5,140
合計	930,697	100.0	964,809	100.0	34,111

(注) 当第3四半期連結会計期間におけるインベストメント事業の営業資産残高の内訳は、営業貸付金が18,081百万円、買取債権が14,061百万円、営業投資有価証券が24,688百万円、販売用不動産が14,114百万円、賃貸資産が20,091百万円、投資有価証券が30,211百万円となっております。

## 営業実績

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

セグメントの名称	売上高	売上原価	差引利益	資金原価	売上総利益	販売費及び一般管理費	営業損益
リース事業	167,995	153,276	14,719	1,776	12,942	7,524	5,417
ファイナンス事業	5,004	1	5,003	1,163	3,839	2,243	1,596
インベストメント事業	19,879	11,886	7,993	455	7,537	2,349	5,187
その他の事業	3,385	2,231	1,154	90	1,063	895	167
調整	33	12	20	-	20	1,290	1,311
合計	196,232	167,383	28,848	3,486	25,362	14,304	11,057

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:百万円)

セグメントの名称	売上高	売上原価	差引利益	資金原価	売上総利益	販売費及び一般管理費	営業損益
リース事業	169,385	154,812	14,572	2,517	12,055	8,011	4,044
ファイナンス事業	5,800	82	5,718	1,786	3,931	2,349	1,582
インベストメント事業	9,973	3,851	6,122	1,013	5,108	2,369	2,738
その他の事業	2,456	1,064	1,392	108	1,283	1,045	238
調整	57	43	13	-	13	1,334	1,347
合計	187,559	159,767	27,791	5,425	22,366	15,110	7,256

(注) 1. セグメントの区分は、主な営業取引の種類により区分しております。

2. 各セグメントの主要品目は以下のとおりであります。

## リース事業

情報通信機器、事務用機器及びその他各種設備機器等のリース・レンタル・割賦販売

リースに関連する物品売買、満了・中途解約に伴う物件売却及びリース機器の保守サービス等

## ファイナンス事業

金銭の貸付、ファクタリング及び配当収益の収受を目的とする有価証券投資等

## インベストメント事業

有価証券の売却益の収受を目的とするベンチャー企業向け投資等

株式会社リサ・パートナーズが行っているアセット、不動産及びアドバイザーの各ビジネス

## その他の事業

ヘルスケアウェアハウジング事業、再生可能エネルギー発電・売電事業、PFI・PPP事業、観光事業及び

その他各種サービス等

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	86,000,000
計	86,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,539,071	21,539,071	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数100株
計	21,539,071	21,539,071		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年12月31日		21,539,071		3,776		4,648

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,519,500	215,195	
単元未満株式	普通株式 18,871		
発行済株式総数	21,539,071		
総株主の議決権		215,195	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式9株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) NECキャピタルソリューション 株式会社	東京都港区港南 二丁目15番3号	700		700	0.00
計		700		700	0.00

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,482	23,830
割賦債権	38,828	37,770
リース債権及びリース投資資産	517,945	471,227
賃貸料等未収入金	22,034	23,694
営業貸付金	231,611	230,669
買取債権	12,419	14,061
営業投資有価証券	22,875	24,688
販売用不動産	23,827	32,536
仕掛販売用不動産	-	1,904
その他	13,107	8,154
貸倒引当金	9,839	8,590
流動資産合計	908,292	859,949
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産	55,819	82,208
その他の営業資産	7,199	7,487
社用資産	363	321
有形固定資産合計	63,381	90,018
無形固定資産		
賃貸資産	1,437	1,164
のれん	1,559	1,492
その他	6,176	7,678
無形固定資産合計	9,173	10,335
投資その他の資産		
投資有価証券	61,737	72,993
その他	15,301	16,620
貸倒引当金	2,011	3,991
投資その他の資産合計	75,027	85,623
固定資産合計	147,583	185,977
資産合計	1,055,875	1,045,926

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	140	345
買掛金	15,654	14,581
短期借入金	27,090	30,202
1年内返済予定の長期借入金	149,486	122,208
1年内償還予定の社債	20,000	10,000
コマーシャル・ペーパー	243,000	220,000
債権流動化に伴う支払債務	1,286	672
未払法人税等	238	616
賞与引当金	847	1,135
役員賞与引当金	33	10
その他	38,615	34,705
流動負債合計	496,394	434,478
固定負債		
社債	80,150	90,750
長期借入金	335,636	371,167
債権流動化に伴う長期支払債務	2,699	2,323
退職給付に係る負債	2,034	1,949
その他	10,145	10,851
固定負債合計	430,665	477,041
負債合計	927,060	911,520
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,776	3,776
資本剰余金	4,646	4,657
利益剰余金	97,131	97,670
自己株式	9	9
株主資本合計	105,545	106,094
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,627	1,874
繰延ヘッジ損益	91	4
為替換算調整勘定	2,262	3,646
退職給付に係る調整累計額	36	10
その他の包括利益累計額合計	3,944	5,515
非支配株主持分	19,325	22,795
純資産合計	128,815	134,405
負債純資産合計	1,055,875	1,045,926

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	196,232	187,559
売上原価	170,869	165,192
売上総利益	25,362	22,366
販売費及び一般管理費	14,304	15,110
営業利益	11,057	7,256
営業外収益		
受取利息	33	49
受取配当金	73	79
持分法による投資利益	-	187
投資事業組合等投資利益	981	343
その他	196	106
営業外収益合計	1,284	766
営業外費用		
支払利息	24	385
持分法による投資損失	93	-
投資事業組合等投資損失	13	55
為替差損	433	589
損害賠償金	85	-
その他	23	70
営業外費用合計	673	1,100
経常利益	11,669	6,921
特別利益		
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益	-	114
関係会社株式売却益	24	9
特別利益合計	24	124
特別損失		
関係会社債権放棄損	-	55
関係会社株式売却損	-	25
特別損失合計	-	81
税金等調整前四半期純利益	11,693	6,965
法人税、住民税及び事業税	865	1,554
法人税等調整額	2,737	953
法人税等合計	3,603	2,508
四半期純利益	8,090	4,456
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,423	945
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,666	3,510

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	8,090	4,456
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	138	79
繰延ヘッジ損益	265	174
為替換算調整勘定	1,769	1,037
退職給付に係る調整額	10	27
持分法適用会社に対する持分相当額	303	599
その他の包括利益合計	2,486	1,569
四半期包括利益	10,576	6,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,154	5,080
非支配株主に係る四半期包括利益	2,421	945

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、新たに設立した匿名組合Rレジデンス1号を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更 在外子会社の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首から、期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外子会社の重要性が増してきたため、一時的な為替相場の変動による損益等への影響を緩和し、在外子会社の業績をより適切に連結財務諸表に反映させることを目的とするものであります。 なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(表示方法の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
当第3四半期連結累計期間において関連会社株式にかかる売却益9百万円を計上したため、前第3四半期連結累計期間に「子会社株式売却益」として表示しておりました子会社株式にかかる売却益24百万円について、「関係会社株式売却益」として表示しております。 この結果、前第3四半期連結累計期間の連結損益計算書において、「子会社株式売却益」に表示していた24百万円は、「関係会社売却益」24百万円として組み替えております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
保証業務に係る債務保証残高	3,764百万円	2,772百万円
(うち、他社が再保証している債務保証残高)	768百万円	823百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	12,198百万円	14,054百万円
のれんの償却額	154百万円	146百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月24日 取締役会	普通株式	904	42	2022年3月31日	2022年6月8日	利益剰余金
2022年10月31日 取締役会	普通株式	796	37	2022年9月30日	2022年12月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月22日 取締役会	普通株式	1,571	73	2023年3月31日	2023年6月6日	利益剰余金
2023年10月30日 取締役会	普通株式	1,399	65	2023年9月30日	2023年12月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	リース事業	ファイナ ンス事業	インベ スト メント事業	その他 の 事業	計		
売上高	167,995	5,004	19,879	3,385	196,265	33	196,232
セグメント利益	5,417	1,596	5,187	167	12,369	1,311	11,057

(注) 売上高の調整額 33百万円は、主にセグメント間取引による相殺額であります。また、セグメント利益の調整額 1,311百万円は、セグメント利益と四半期連結損益計算書の営業利益との差額であり、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	リース事業	ファイナ ンス事業	インベ スト メント事業	その他 の 事業	計		
売上高	169,385	5,800	9,973	2,456	187,616	57	187,559
セグメント利益	4,044	1,582	2,738	238	8,604	1,347	7,256

(注) 売上高の調整額 57百万円は、主にセグメント間取引による相殺額であります。また、セグメント利益の調整額 1,347百万円は、セグメント利益と四半期連結損益計算書の営業利益との差額であり、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益	263円20銭	163円04銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	5,666	3,510
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	5,666	3,510
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,528	21,532

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

2023年10月30日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額 1,399百万円

1株当たりの金額 65円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 2023年12月8日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月5日

NECキャピタルソリューション株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 深井康治

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋善盛

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNECキャピタルソリューション株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NECキャピタルソリューション株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。